



[著者]

清水ヒデキ 豪援隊長
弁護士・移民コンサルタント
(MARN:9900985)

「オーストラリアから日本を援
けよう」と豪援隊発足。16歳
で単身オーストラリアに留
学。その後、ボンド大学を卒
業し、QLD州弁護士資格取
得。長年に渡り、日本人なら
びに日系企業、世界各国の
クライアントのコンサルタント
業務に従事。



インデックス

- 筆者の気になる人・・・
- 今月の視点
- 今月の熱いヤツ
- 今月のジョーク1
- 今月の注目記事
- 今月ジョーク2
- 今月のジョーク3
- 今月のジョーク4
- 今月の名言



<http://zoesangels.org/>
Go オーストラリアグルー
プは、Zoe's Angels
「Zoeの天使たち」を
支援しています。

Go Australia
Visa Consultant

Go Australia Concierge
Shimizu Kokusai Law
Office

Conveyancing Home
QLD

Injury & Accident
Lawyers



筆者の気になる人・・・

最近、気づいたことがあります。

この歳でとても恥ずかしいことなのですが。。。それは、特定の人のことをやたら気にしている自分がいることです。こんな気持ちになったのも、久しぶりのことかもしれませんが、その方の一挙手一投足に、ドキドキさせられる今日この頃です。この前も、その方の姿を見かけたのですが、お見かけただけで、なんだか心拍数が上がってしまいます。しかも、その方のお話をお聞きするだけで、なんだかやるせない気持ちになってしまいます。

このかわら版をお読みの読者の方にだけ内緒で、筆者が気にかけている人の名前をお知らせします。それは。。。。

ピーター・ダットン移民相です。また、今月もいろいろとオーストラリアをにぎわせていただきました。そして、今度は、どんな移民法の改正が発表されるのか、本当に心臓に悪いです。

今月の視点 「今月に入っても、ダットン旋風が止みません」

1. Home Affairs

「ホームアフェアーズ？家庭での情事！？」何かのドラマのタイトルですか？という声が聞こえてきそうですが、これは月9ドラマとも映画のタイトルとも全く関係ありません。

これは、今月18日にターンブル首相によって突然発表された新省の名称です。昨今のテロ対策の一環としてオーストラリアの治安と安全をより図るためにと設立されました。そして、この新たな役所の新設に伴い、Australian Security Intelligence Organisation (ASIO)(オーストラリア版情報機関)も、この新省の管轄となることが決まりました。

さらに、この新省の大臣として、我らが移民相のダットン氏が兼任するということになりました。これにより、ダットン大臣はオーストラリアに入国する外国人のみならず、既にオーストラリアに入国している外国人の一挙手一投足まで目を光らせることになりました。こんな八面六臂の大活躍中のダットン大臣ですから、今は次の総理大臣候補とまで言われるようになっています。

ひな鳥のような顔に眼光鋭いその表情は、さすが「悪い子はおらんかあ」と目を見張る番人の長に相応しいといえます。オーストラリアのメディアは、ただでさえ大変な移民局の重責があるのに、それに付け加えて国家の安全を守る情報機関の長を務めるのは難しいのではないかと、一人の大臣にそれだけの責任が集約するのは好ましいことではないのではという声もあります。

テロへの警戒という名のもと、オーストラリアもどんどん国民の監視を強めています。それと同時に、昨今の457ビザの廃止発表や市民権取得条件の厳格化にみられるように、ますますオーストラリア入国のゲートも狭められています。どことなく、オーストラリアも緩やかな鎖国を進めているようにも思われます。そして、今回の新省の設立とダットン大臣の重任は、オーストラリアはどこか一定の方向に舵取りを進めていることをほのかに裏付けています。えっ、どの方向に向かっているかって？それは、またこのかわら版で追々お話をさせていただきます。

2. 二重国籍問題

日本では、某政党の某(?)党首が自身の二重国籍問題において、弁解にも説明にもなっていない対応で、国民からの反感を買い続けた挙句、最終的には辞任となりましたが、オーストラリアでも正に政治家の二重国籍問題に揺れる7月となりました。

ご存知のとおり、オーストラリアは二重国籍を認めています。こと政界では認められていません。そんな中、二重国籍を保持していたとして、与野党議員含めて3人の国会議員が議員を辞職することとなりました。ごく最近にはさらに3人、計6人の国会議員の方々がこの問題にて辞職または説明を迫られています。

この問題、日本の某政党の元党首の方は、党首を退任するだけで留まっているようですが、オ

一オーストラリアにおいては憲法違反ということで即刻辞職の対象になってしまう。しかも、移民の国であるオーストラリアにおいて、日本よりも個人の国籍に関しては現状を把握することが難しい。とある議員にいたっては、自身でイタリア国籍を取得した覚えがなかったが、その議員の母親がイタリアの国籍を取得する際に息子もついでにと申請しておいたがために、それを知らなかった息子議員が二重国籍として辞職したという話もありました。

今回、あまりにもこうした問題が表面化したために、二重国籍自体を見直すべきだということにも発展しているようで、そうなると、ますます国民の分別が進んでいくことになりそうです。移民の国、多民族国家が売りであったオーストラリアも、今、明らかに方向転換をしたことに気づかなければならないようです。

3. 市民権取得法改正

オーストラリアの市民権取得に関する法律の改正が発表されました。益々、オーストラリアのネオ白豪主義政策に拍車がかかっています。市民権を取得するためには、永住権で4年以上の滞在、そして何とIELTS テストでスコア6以上が必要となりました。(この英語の基準に関しては、少し緩和される可能性もあるようですが。) この条件からも、オーストラリア政府がある一定の民族を重視し、そして特定の民族はいらないというスタンスをはっきりと取りました。経済政策に重きを置き、国の景気浮揚を期待されていた現政権にとって、今ひとつ経済政策において決定打が出せない現在、何かしらのアピールをしなければ、選挙戦を戦えないと考えていることは間違いありません。宿敵ハンセン議員のナショナリズムな政策受けが予想以上に良いことから、大衆アピールとしてもこの市民権取得条件の締め付けは、現政権への支持率アップにつながるはずだと考えていたはずで

面白いのは、今までこうした移民に対する締め付けは労働党のおはこであったわけですが、今回の場合には、労働党のおはこを奪う締め付けを現政権が行ったことです。そうなると、「労働党的予算」「労働党的移民政策」「労働党的支離滅裂な政党運営」を行っている現政権を相手では、本家労働党もその政策の違いを国民に強調することが難しくなります。

さて、これを来年の選挙を目標に行っているとしたら、かなり長期的な戦略であると思いますが、最近のターンブル首相の言動を見ていると、少し支持率回復に躍りになっての政策のようにしか思えないのは筆者だけでしょうか。。。

今月の熱いやつ

「Paul Catchlove – Legends of League」

8月4日、BeenleighにあるBill Norris 競技場にて行われたチャリティーイベント「Legends of League (伝説のラグビー選手達)」にメジャースポンサーとして参加させていただきました。このLegends of League というイベント、日本で言うならプロ野球「名球会」のオーストラリア・ラグビー版とでも言いますでしょうか、オーストラリアのプロラグビーリーグで活躍された選手が引退後、再度集まって各地のローカルクラブの代表とプレイするというもの。今回は、3月に洪水に見舞わ

れた Beenleigh 地域の方々の被害者救済という目的で開催されました。

当日は、3000人を越えるローカルが集まり、オーストラリア人のラグビー人気を改めて感じました。メインゲームは、オーストラリア代表チーム対ローガン・オールスターズ。ローガン地区のクラブから選抜された選手達が、オーストラリアを代表するラグビー選手達に胸を借りるという形式で行われました。引退しているとはいえ、体の大きさの違いは変えることはできず、さすがはオーストラリア代表選手たちというプレイが観客を沸かせました。

当グループからも、COO(思わず「クー」とか「コー」とか読んでしまいがちですが、正式には Chief Operating Officer です)であるポール・キャッチラブがローガン・オールスターズの一員として参戦。元プロのラグビー選手からタックルを受け、その痛みと感動をまさに体に受け止めていました。次の日に、動けなかったことはいうまでもありません。

当グループでは、また今後もこうしたチャリティーイベントには積極的に参加をしていく予定です。そして、ポールも引き続きその存在感をアピールしていくことでしょう。



今月のジョーク 其の壱

(ジョーク集より)

FAT FREE

ある日、スミス氏が食料品店へ行った。品物を抱えた彼は、レジで勘定してもらった。彼は、レジ係に尋ねた。

「FAT(脂肪)はどこにあるのかね」

レジ係は、その意味が理解できず聞き返した。

「は？すみません、FAT ですか？」

「そうだ、FATだ。FATをくれ」

このやりとりが続き、理解できずにいるレジ係に業を煮やしたスミス氏が、大声で怒鳴りはじめたので、まわりの人が集まってきた。それをみたマネージャーがやってきて、スミス氏にどういふことが尋ねた。スミス氏が応える。

「おい、マネージャー。よく見ろ。このヨーグルトの箱に『FAT FREE』と書いてあるだろう。それなのにこのレジ係は、FATをくれないんだ」

(彼は、FAT FREE を、脂肪なし、ではなく、FAT はタダ、と解釈した)



今月の注目記事 (Sydney Morning Herald より)

Government's intern plan is just a pathway to poverty 「政府のインターンプログラムは国を貧困への道筋にすぎない」

オーストラリア政府にとって、経済の動静を判断するいくつかの重要なバロメーターのうちの一つは、インフレ率であり、公定歩合、そしてもう一つは失業率であろう。もちろん、これら以外にもいろいろな判断材料があるのだが、これらの数字はニュース等でも比較的良好に聞かれるものである。

そして、こうした失業率解消策の一つとして今年7月より、PaTH(Prepare, Trial, Hire)というプログラムが導入されることとなった。長期間失業している人材を12週間のインターンシップに送り込むことで、失業を解消しようというのがその試みである。しかも、こうしたインターンを受け入れる企業にはインターン一人につき\$1000の補助金、そしてインターン期間中は時給\$4を支払うことが条件となる。

一見、非常に良い考えと思われるこのPaTHであるが、この記事の筆者は、ただでさえオーストラリアの雇用環境が破たんしているのにも関わらず、それをますます助長させるだけだと反対の声を上げている。なぜなら、これは労働者を安価で雇い入れ、使いまわしをすることを政府が後押しする形になるからであると説明している。

確かにこの見解は言い得て妙である。ここ数年、オーストラリア政府のターゲットは外国人労働者を悪条件にて雇用する雇用主に向けられていた。その結果、オーストラリア事業主は様々な形で処罰され、中には商売自体を辞める事業主も多かった。こうした事業主に対して、もちろん決められたことは守るべきだという建前をいうことは簡単である。そして、認められるべきではないが、多くの企業はそれぞれのサバイバルに必死であり、その結果行ったことであるということも言える。一部の企業を除く中小企業の事業主は私腹を肥やすこと以上に、生き残ることで必死なのである。これは、毎年着実に上がる最低賃金と家賃のおかげで、事業の利幅が自動的に圧縮されてしまうからである。そう、以前にもこのかわら版で書いたことがあるが、オーストラリアの事業主の大半は従業員と大家のために、とてつもない苦勞を強いられる。その結果、事業が破たんする。または、安い海外の労働者を求めて、事業の一部をアウトソースすることとなる。昨今、フィリピンやベトナムといった労働コストの安いアジアへ事業の部分的なアウトソースをする会社は少なくない。

そうすれば、必然的に雇用の先はなくなっていき、失業率は上がってしまう。それでは、オーストラリア人でなければできないことを「売り」に、オーストラリア労働者は国内だけではなく、もっと国際的にも売り込みを行わなければならないが、ますますオーストラリアは労働力としては国際的に取り残されていってしまっている。残念ながら、今のオーストラリアは優秀な人材は海外に流出し、それ以外は他の国の労働者との差別化をできずにいる。唯一、差別化できることは労働法に明るく(?)、時間にルーズなことであろうか。。。これでは、国際競争に勝つことはできない。

資源国として、何か売れるものがあるうちは、その国の富みは確保されるものの、それがなくなったら、その時点でその国の価値は下落してしまう。あらゆる面で迷走中のオーストラリアという国が今後の歩むべき方向性と独自の価値感をどこに見出すか楽しみである。

今月のジョーク 其の貳 (ジョーク集より)

律儀な男

ある日曜日の昼下がり、男は2回の屋根の上で、雨漏りを直していた。

彼の妻は庭で芝刈りに精を出していた。

突然、男が足を滑らせた。

落下しながら、彼は大声で妻に向かって叫んだ。

「あい！夕飯は作らなくていいぞ。」



今月のジョーク 其の参 (ジョーク集より)

睡眠薬

「ねえねえ、起きて、起きてよ、ダーリン」

「うん？どうしたんだよ。夜中の3時じゃないか。ぐっすり寝たのに、ったく」

「大変なことじゃないけど、あなたに睡眠薬をあげるのを忘れちゃったのを思い出したのよ」



今月のジョーク 其の四 (ジョーク集より)

良いニュース

医師

「良いニュースがありますよ、

ミス・ボンド」

女性

「失礼ですが、私はミス・ボンドです」

医師

「でしたら、悪いニュースがあります」



今月の名言 (名言集より)

Love is more afraid of change than destruction.

愛が恐れているのは、愛のは破滅よりも、むしろ、愛の変化である。

Friedrich Nietzsche (ニーチェ)

1844-1900

ドイツの哲学者、古典文献学者



ゴールドコースト事務所

Suite 222, Level 2, Watermark Hotel & Spa
3032 Surfers Paradise Blvd, Surfers Paradise QLD 4217

ブリスベン事務所

Level 5, 262 Adelaide St, Brisbane QLD 4000

E: info@goaustralia-visa.com

<電話でのお問合せ>

オーストラリアから: 07-5570-4542 (月~金 9:00-17:00)

日本から: 03-4283-8484 (日本時間 月~金 8:00-16:00)

www.goaustralia-visa.com